

「遊びの指導」の充実を図る授業改善プロジェクトの取組

～秋田県教育委員会における各教科等を合わせた指導の研究開発③～

○高田屋陽子 小山高志 清水 潤
 (秋田大学障害児教育講座) (秋田県教育庁) (国立特別支援教育総合研究所)

KEY WORDS: 教育施策、授業改善、遊びの指導、授業実践

(目的)

秋田県教育委員会では平成 26 年度から県内の特別支援学校における「各教科等を合わせた指導」の授業力向上を目的として「授業改善プロジェクト」を4か年計画で実施している。このプロジェクトでは、基礎研修、授業実践、授業研究会等を効果的に関連させ、担当教員の授業力の向上を図るとともに、その成果を各特別支援学校において共有し、学校全体において実践的な授業力の向上を目指している。平成 28 年度は「遊びの指導」を取り上げ、指導の要点について共通実践し指導の充実を図った。

(方法)

1 基礎研修会と授業実践・授業研究会の関連性の強化

基礎研修会において「遊び」を「発達と遊び」という視点からとらえ、その基本を押さえた上で「遊びの指導」に関する基礎・基本的な事柄を研修内容として取り上げた。また、協議において各担当教員のこれまでの実践を振り返る中で、共通の課題について整理したところ、次の2点について共通実践事項として取り組むこととした。

(1) ねらいを明確にした「遊びの場」の環境設定

- ・児童が積極的に遊ぼうとする環境を整えることは非常に重要と捉える。遊びの場にどのような遊具をどのような目的で設置するのかについて学習指導案の配置図に明記し、教師間で共通理解を図った。

(2) 遊びの指導の要点を組み入れた「授業実践チェックリスト」の活用

- ・これまで授業改善プロジェクトにおいて活用してきた「授業実践チェックリスト」に遊びの指導の要点を組み入れて作成し活用した。

2 授業研究会の進め方の工夫

(結果と考察)

1 効果的な場の設定と教師の手立ての評価の明確化

遊びの場の設定やイメージを教師間で共有することで、児童の遊びの流れを見て、状況に合わせ教師が連携しながら関わることができた(図2)。

なお、配置した遊具において、教師が意図的に児童を誘導するのではなく、児童の興味・関心に寄り添いながら自発的な遊びを促すことに留意した。

また、事前に授業実践チェックリストにより遊具や教材の特徴を分析し、教師の支援を「遊びに寄り添う支援」「遊びのモデルとなる支援」「子ども同士の遊びをつなぐ支援」等、必要な項目についてより細分化したことで評価の視点を明確にすることができた。このことにより次時の授業に向けて、教師間で「遊びの指導」における児童一人一人の育てたい力や必要な支援について共通理解を図ることや、遊具や教材の具体的な改善へと結びついた。



2 授業研究会で得た要点の各校における共通実践

2つの要点について共通実践をし、その要点を踏まえて授業研究会を実施したことで、協議の内容をより具体的な授業改善に生かすことができた。また、本プロジェクトにおいては、授業研究会で得た知見が、現在実施している自校の取組に自然な形で反映されていくことが非常に重要であることが分かった。

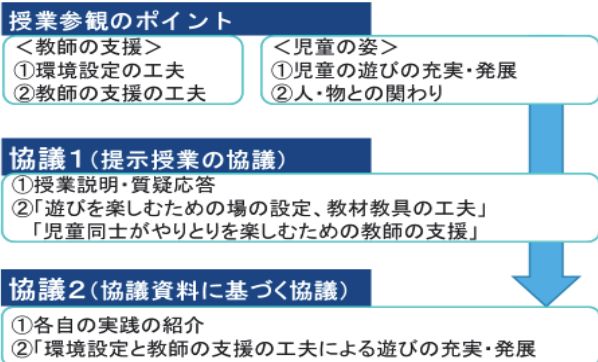
年度末には本プロジェクトの取組の成果をまとめ県内の教育研究発表会で発表し、1年間の取組を「遊びの指導ガイド」として発刊することで周知を図った。

平成 29 年度、本プロジェクトは「各教科等合わせた指導」のまとめとして「日常生活の指導」について取り組むこととなる。平成 28 年度の進め方で得た成果と課題を活かしながら、作業学習、生活単元学習との関連性も明確にし、具体的な授業改善に向けた取組を進めていきたい。

(文献)

- 文部科学省(2006)特別支援学校学習指導要領解説総則編(幼稚園・小学部・中学部)
- 文部省(1993)遊びの指導の手引
- 秋田県教育庁特別支援教育課・秋田県総合教育センター(2013)特別支援教育のミニマムスタンダード
- 秋田県教育委員会(2017)特別支援学校遊びの指導ガイド(TAKADAYA Yoko, OYAMA Takashi, SIMIZU Jun)

授業研究会の流れ 【図1】



授業研究会を実施する際に、教師の支援について「環境設定の工夫」「教師の支援の工夫」の2点についてポイントを絞って授業参観を行った。また、提示授業について具体的な手立ての評価を含めた協議を行う協議1と共通の要点を踏まえて実践した自校の取組について紹介したり、話し合ったりする協議2を段階的に実施し、研究会で得た知見を各校の今後の取組に反映できるようにした(図1)。なお、授業研究会においては、教育専門監からも積極的に助言を得ながら進めるようにした。